

令和 2 年 度
長野市放課後子ども総合プラン事業
自己評価集計結果

長野市こども未来部こども政策課

令和2年度 長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価集計結果

長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン（平成30年3月策定。以下「ガイドライン」といいます。）に基づき、令和2年度（令和元年度）における放課後子ども総合プラン事業の実施内容等について、実施場所ごとに自己評価を行いました。

《長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン》

第2章 基本的事項及び管理運営

10 自己評価

事業者は、運営内容の向上のため、実施場所ごとに提供する支援の内容等について自己評価を行い、その公表に努めるものとします。

1 実施状況

対象：90施設 実施：90施設（実施率100%）

（参考：令和元年度 対象90施設 実施90施設（実施率100%））

2 集計結果（評価項目ごとの評価指標等については、次頁以降）

評価項目	評価結果				
	区分	◎	○	△	×
1 人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関する事	R2年度	90施設	0施設	0施設	0施設
	R元年度	90施設	0施設	0施設	0施設
2 運営管理に関する事	R2年度	31施設	53施設	6施設	0施設
	R元年度	35施設	48施設	7施設	0施設
3 育成支援の内容に関する事	R2年度	68施設	21施設	1施設	0施設
	R元年度	61施設	28施設	1施設	0施設
4 配慮を要する児童への対応に関する事	R2年度	69施設	13施設	8施設	0施設
	R元年度	66施設	18施設	6施設	0施設
5 多様な体験活動、交流等の機会の提供に関する事	R2年度	40施設	22施設	25施設	3施設
	R元年度	55施設	24施設	8施設	3施設
6 安全管理に関する事	R2年度	64施設	24施設	2施設	0施設
	R元年度	60施設	27施設	3施設	0施設
7 保護者、学校及び地域との連携協力に関する事	R2年度	66施設	20施設	4施設	0施設
	R元年度	62施設	25施設	3施設	0施設

《評価項目1》人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R2年度	90施設	0施設	0施設	0施設
R1年度	90施設	0施設	0施設	0施設
R元年度	90施設	0施設	0施設	0施設

◎ ○ △ ×

○、△、×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

<p>① 児童及びその家族の人権に十分配慮し、一人一人の人格を尊重している。</p>	<p>R2年度 100%</p> <p>R1年度 100%</p>
<p>② 児童及びその家族の国籍、信条又は社会的身分等によって、差別的な扱いをしていない。</p>	<p>R2年度 100%</p> <p>R1年度 100%</p>
<p>③ 児童虐待等、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。</p>	<p>R2年度 100%</p> <p>R1年度 100%</p>
<p>④ 児童及びその家族の個人情報を適切に取扱っている。また、正当な理由がなく、業務上知り得た児童及びその家族の秘密を外部に漏らさないよう配慮している。</p>	<p>R2年度 100%</p> <p>R1年度 100%</p>

結果

全施設で児童やその家族の人権の尊重やプライバシーの保護の重要性が認識され、情報の管理が徹底されている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・ 不用意な言葉は児童の心身に影響すること、センターへ向かう足をとめてしまうことを心に留め、言葉がけに気を付けている。
- ・ 児童ひとりひとりの人権に配慮できるよう、毎日の職員の打合せの中で、職員が気づいた事などを共有し、個人的な考え方に偏らないよう配慮している。
- ・ 研修会等の情報を共有し、「人格を尊重し、差別的扱いはしない。」「児童に対しては常に寄り添う気持ちを忘れずに接する。」を第一に適切な指導に心がけている。
- ・ 保護者から家庭の事情に立ちいった内容の相談も受けるが、個人情報を厳守、外部に漏らさないようにしている。

《評価項目2》運営管理に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R2年度	31施設	53施設	6施設	0施設
R1年度	35施設	48施設	7施設	0施設

	◎	○	△	×
R2年度	34%	59%	7%	
R1年度	39%	53%	8%	

0% 20% 40% 60% 80% 100%
×は該当施設なし

※保育実費の負担を求めている施設（①～⑩）

評価指標の「○」の数が10個⇒「◎」、7～9個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

保育実費の負担を求めていない施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 実施日は、1年につき250日以上を原則とし、保護者の就労状況、学校の授業日、その他地域の実情を考慮して設定している。	R2年度 R1年度	99% 97%
② 実施時間の延長については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。	R2年度 R1年度	91% 92%
③ 運営規程を定め、運営規程に沿った事業運営を行っている。	R2年度 R1年度	97% 98%
④ 職員は、自己研さんに励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。また、職員間で必要な知識及び技能の共有を図っている。	R2年度 R1年度	99% 100%
⑤ 運営内容向上のため、提供する支援の内容等について自己評価を行っている。	R2年度 R1年度	91% 86%
⑥ 自己評価の結果は、掲示板への掲示や通信（施設だより等）への掲載などにより公表に努めている。	R2年度 R1年度	52% 53%

<p>⑦ 要望・苦情を受け付ける窓口を設置し、周知している。</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>86%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>91%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	86%	R1年度	91%
年度	割合						
R2年度	86%						
R1年度	91%						
<p>⑧ 苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、誠意ある解決を図っている。</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>100%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>99%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	100%	R1年度	99%
年度	割合						
R2年度	100%						
R1年度	99%						
<p>⑨ おやつ提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>76%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>80%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	76%	R1年度	80%
年度	割合						
R2年度	76%						
R1年度	80%						
<p>⑩ おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">令和2年度対象施設は、49施設</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>96%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>98%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	96%	R1年度	98%
年度	割合						
R2年度	96%						
R1年度	98%						

結果

- ・自己評価の実施については前年度より上昇しているが、実施結果を公表した施設の割合は前年度から低下しており、実施率も低くなっている。
- ・ガイドラインに定める苦情の受付窓口の設置・周知の達成割合は前年度から減少したものの、苦情を受けた場合の対応については、全施設で速やかにかつ丁寧な解決を図っている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・自己評価の結果は運営委員会において公表しているが、掲示板等では公表はしていない。
- ・自己評価の結果、掲示板への提示は、初めは提示していたが、理科室を借りての運営の為、常時の提示は、難しい。
- ・児童の理解や支援の仕方などの研修には必ず参加し、参加者が職員会で発表して職員全員で共有するようにしている。
- ・職員は研修等に積極的に参加し、児童がどうすれば楽しく安全に過ごせるかを考え、日々相談しながら習得及び向上に努めている。
- ・要望・苦情の窓口は特別設置していないが、送迎時に保護者との会話の中でコミュニケーションを取るようにしている。
- ・今年度、問題にするような苦情はなかったが、どんな問題も全員で共有し、解決を図り、場合によっては社協放課後子ともプラン担当や市に報告・連絡・相談し対応している。
- ・実施時間の延長については、延長勤務ができる職員がいないことから、アンケートが取れない状況であるが、働く環境づくりが整えば、アンケートを実施したい。
- ・開館日数や実施時間については、職員の人数や働き方（家庭事情）に課題があり、市の延長方針に対応できていない。

《評価項目3》育成支援の内容に関すること

評価結果						
区分*	◎	○	△	×		
R2年度	68施設	21施設	1施設	0施設		
R1年度	68施設	21施設	1施設	0施設		
R元年度	61施設	28施設	1施設	0施設		

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

おやつを提供していない施設（①～⑧）

評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の出欠席についてあらかじめ保護者からの連絡を確認しておくとともに、児童の心身の状況を把握するようにしている。	
② 実施場所での生活を通して、児童が日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるよう支援している。	
③ 児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるよう支援している。	
④ 児童が自分の気持ちや意見を表現することができるよう支援している。	
⑤ 児童が悩みや相談事を話しやすい雰囲気づくりに心掛けるようにしている。	
⑥ 児童が安全に安心して過ごすことができるように環境を整備するとともに、緊急時に適切な対応ができるようにしている。	

<p>⑦ 実施場所での児童の様子を日常的に保護者に伝え、児童に関する情報を保護者と共有するようにしている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>R2年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>98%</td> </tr> </table>	R2年度	99%	R1年度	98%
R2年度	99%				
R1年度	98%				
<p>⑧ 児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には、保護者と連絡を取り、迎えに来てもらったり、状況に応じて医療機関につなげたりするなど、児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。</p>	<table border="1"> <tr> <td>R2年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	R2年度	100%	R1年度	100%
R2年度	100%				
R1年度	100%				
<p>⑨ おやつを提供する場合、提供する時間や内容、量等は、児童の来所時間や帰宅時間、遊びや生活の流れ、児童の状態を考慮している。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">令和2年度対象施設は、43施設</p>	<table border="1"> <tr> <td>R2年度</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>96%</td> </tr> </table>	R2年度	98%	R1年度	96%
R2年度	98%				
R1年度	96%				
<p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠の事前把握については、前年度より上昇したものの、依然として約2割の施設で実施できていない。 ・発達段階に応じた主体的な遊び等ができるような支援、自分の気持ち等を表現できるような支援が前年度より減少している。 					
<p>施設コメント（主なもの、参考となるもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の出欠席の連絡について、必ず事前に施設まで連絡するよう文書でお知らせした。 ・玄関先に児童お預かりの予定表を置き、保護者に随時記入いただき、事前にお預かり児童数の確認ができるようにするとともに、毎日児童の出席を取り、児童一人一人の心身の状況把握に努めている。 ・児童の出欠席・心身状況については、登録表及び直接保護者からの把握したデータを基本に対応している為、独自の出欠席の連絡を保護者に求めている。 ・今年度は屋外での活動が少なく、室内活動が中心でした。限られたスペースの中でも机の配置を変えたり、遊びの選択ができるように道具を増やしたりし、工夫することが出来た。 ・児童の得意なこと、頑張ったことを誉め、共感的に接することで児童が困ったことや悩みを相談しやすい雰囲気づくりに心がけている。 ・児童は一人一人個性があり、自分の気持ちを表現することができない児童も多い。一人でいる子、友達とトラブルを巻き起こす子など様々だが、何があってもそうだったか、奥にひそめた気持ちを引き出せるよう、できる限り言葉がけをしていきたい。 ・児童の安全の確保を優先することから児童の発達に応じた主体的活動に制限をかけてしまうことがある。今後の課題としたい。 ・理科室を借りての運営の為、安全が思っている以上に確保するのが難しく、児童にはのびのびとした空間を提供できていない。 					

《評価項目4》配慮を要する児童への対応に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R2年度	69施設	13施設	8施設	0施設
R1年度	66施設	18施設	6施設	0施設

年度	◎	○	△	×
R2年度	77%	14%	9%	0%
R1年度	73%	20%	7%	0%

0% 20% 40% 60% 80% 100%
×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が6個⇒「◎」、5個⇒「○」、3・4個⇒「△」、2個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 児童同士が生活を通して共に成長できるよう、障害のある児童についても受入れに努めている。	R2年度 98% R1年度 98%
② 障害のある児童の受入れの判断は、児童や保護者と面談の機会を持つなどして、児童の健康状態、発達の状況、家族の状況、保護者の意向等を個別に把握し、適切に行っている。	R2年度 93% R1年度 94%
③ 障害のある児童の育成支援については、個々の状況に応じて、関係機関及び専門家と連携を図っている。	R2年度 84% R1年度 82%
④ 障害のある児童の育成支援が適切に図られるように、児童の状況に応じた職員の配置や加配に努めている。	R2年度 94% R1年度 93%
⑤ 児童虐待が疑われる場合には、市又は児童相談所に速やかに通告するようにしている。また、学校及び関係機関と連携して適切に対応している。	R2年度 98% R1年度 99%
⑥ 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめ等の問題が生じたときには速やかに学校に連絡し、保護者、学校、関係機関と連携して適切に対応している。	R2年度 97% R1年度 100%

結果

障害のある児童の育成支援に関する関係機関・専門家との連携を図る施設の割合が令和元年度から上昇したが、依然として実施率が低くなっている。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・苦手な環境（大きな音など）が、それぞれ違うので、一人一人に合った対応をするように心がけるようにしている。
- ・障害のある児童についての情報は学校からもらいにくく、情報交換会を申し込んでも先生方が忙しすぎてなかなか応じてくれない。支援が必要な児童が多いので、特別支援教育の専門員がほしい。
- ・支援員がいじめと思っても、当の本人がいじめの認識がない場合はどうすれば良いのか判断が鈍ることがある。
- ・障害のある子の様子を知るとは他の児童にとっても貴重な体験と思う。いろいろな人との出会いが心の成長につながるのではないか。
- ・現在配慮を要する児童がいないため評価はつかないが、障害のある児童の入館希望が出た場合は適切に対応する。
- ・子ども同士のトラブルを見聞きした際には迅速に本人たちから話を聞き、保護者にも連絡している。また、他の職員にも口頭または書面で情報共有を図っている。
- ・障害のある子について、加配をつけ、担当職員を決めて対応できた。自閉症のある子は、その職員によって、友達の輪が広がり、コミュニケーションが少しずつできるようになってきている。
- ・現在、障がいのある児童や虐待が疑われる児童の登録はないが、必要が生じた場合は適切に対応したい。個性の強い児童に対しては、小学校と連絡会をもち、連携を図っている。

《評価項目5》多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

評価結果					
区分*	◎	○	△	×	
R2年度	40施設	22施設	25施設	3施設	R2年度 44% 24% 28% 3%
R1年度					R1年度 61% 27% 9% 3%
R元年度	55施設	24施設	8施設	3施設	

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 児童に多様な体験活動、交流等の機会を定期的かつ継続的に提供している。	R2年度 74%	R1年度 93%
② 小学校区における事業の円滑な実施を図るため、運営委員会、学校関係者、地域組織(母親クラブ等)、地域住民、保護者等との総合的な調整に努めている。	R2年度 82%	R1年度 89%
③ 地域社会全体で児童を見守り育む機運を高めるため、地域ボランティアの掘り起しと、活用に努めている。	R2年度 51%	R1年度 69%
④ 活動の内容は特定のものに偏ることのないよう配慮し、児童の要望を反映するように努めている。	R2年度 87%	R1年度 94%

結果

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、各項目とも令和元年度より実施率が減少しているが、中でも地域ボランティアの掘り起こしや活用が課題となっている。

施設コメント(主なもの、参考となるもの)

- ・毎月のアドバイザー活動、お誕生日会、年一回のディサービス訪問による高齢者との交流会、保護者会による年4回の美化活動、毎年5月運営委員会などの実施を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全ての活動をストップした。
- ・アドバイザーには月4回程来てもらい、又長期休みには高校生ボランティアに来て貰っている。年齢差の少ない故だろうか、児童は高校生と遊ぶ時や学習を見て貰っている時等、普段では見られない様子が伺え、心を開いて楽しんでいる様だ。
- ・屋外での活動も自由に遊びたい児童が多く、アドバイザーの活動を組んでも、参加者が少なく、アドバイザーさんに申し訳なく思う事もあり、依頼をためらう事も多い。

- ・ 保護者会・母親クラブ・運営委員会・地域住民との関わりを持つため、遠足・お年寄との交流会等を実施している。
- ・ 令和2年度は新型コロナ感染防止のため中止としたが、かがやき広場安茂里と年1回児童センターから訪問し、福祉センターからは、お返しに手作りの花や縫った雑巾をプレゼントしてもらうような交流へと発展している。
- ・ 地域の人たちは仕事についている人が多く、子どもたちと関わってくれるような人はなかなかいない。ボランティアとなると、70代後半、80代になってしまう。
- ・ 保護者や地域のボランティアに、アドバイザー登録してもらっているが、今年度は新型コロナ感染症の影響で行事が中止となり、児童にとってもボランティアの方にとっても残念だったが、来年度は感染対策をしつつ、実行していきたい。
- ・ アドバイザー活動は、活動時の見守りのしやすさなど運営面から選ぶことが多い。児童の要望を反映できるよう今後の課題としたい。

《評価項目6》安全管理に関すること

評価結果						
区分*	◎	○	△	×		
R2年度	64施設	24施設	2施設	0施設		
R1年度	60施設	27施設	3施設	0施設		
R元年度	60施設	27施設	3施設	0施設		

※おやつを提供している施設（①～⑨）

評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4～6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

おやつを提供していない施設（①～⑧）

評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

《評価指標》

（○の占める割合）

① 児童の手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努めている。	
② 感染症の発生状況について情報を収集し、感染症の発生や疑いがある場合には、二次感染を防止するための措置を講じるようにしている。	
③ 実施場所及びその周辺の設備等の安全性について日常的に点検している。	
④ 事故及びけがの防止に向けた対策や発生時の対応に備えた訓練又は研修を実施している。	
⑤ 事故及びけがが発生した場合には、速やかに適切な処置を行い、速やかに保護者に連絡するようにしている。	
⑥ 災害等が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるように定期的に訓練を実施している。	

<p>⑦ 市及び学校等関係者と連携を図り、地域における児童の安全確保及び安全点検に関する情報の共有に努めている。</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>93%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>91%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	93%	R1年度	91%
年度	割合						
R2年度	93%						
R1年度	91%						
<p>⑧ 災害等が発生した際に保護者及び市、学校等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備している。</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>96%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>93%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	96%	R1年度	93%
年度	割合						
R2年度	96%						
R1年度	93%						
<p>⑨ おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。</p> <p style="text-align: center;">令和2年度対象施設は、43施設</p>	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>R2年度</td><td>98%</td></tr> <tr><td>R1年度</td><td>98%</td></tr> </table>	年度	割合	R2年度	98%	R1年度	98%
年度	割合						
R2年度	98%						
R1年度	98%						

結果

- ・日常的な衛生管理や安全管理、事故やけがが発生した場合の処置についてはほとんどの施設で徹底されている。
- ・事故やけがが発生した場合に備えた訓練又は研修の実施を行う施設の割合が前年度から上昇したものの、依然として約2割の施設では達成できていない。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・毎月10日に安全点検を実施した。
- ・コロナ禍で、今まで以上に手洗いやうがい、手指消毒、マスクの着用、施設内の消毒等、特に力を入れた。
- ・今年度はコロナ対策で、特に手洗い・消毒・換気に毎日取り組むことができ、例年流行するインフルエンザの感染者が一人もいなかった。
- ・児童数が多いためコロナ対策としての三密を完全に実施することは出来ないが、マスク着用及び手洗いの徹底、並びに入館時の検温、手指消毒をし、アルコールを用いた清掃をしている。
- ・日常の衛生管理に気を付け、消毒などを職員全体で取り組むほか、ケガ、災害時などの取り組みについて職員会などで研修をしている。
- ・事故及びけがの防止に向けた対策は行っているが、発生時の対応に備えた訓練又は研修については、AEDの取り扱い訓練を毎年実施している消防訓練の中で実施したい。
- ・台風19号災害の教訓を大切に、学校のメール配信等と連携しながら、安全に速やかに行動ができるようにしている。
- ・地域における安全確保はどんなことがあるのかわからない。
- ・広範囲のため地域に関する情報は共有できない。
- ・おやつのアレルギー対策として、事前に保護者と相談をし、職員全員が把握できるように、表を掲示している。

《評価項目7》保護者、学校及び地域との連携協力に関すること

評価結果				
区分*	◎	○	△	×
R2年度	66施設	20施設	4施設	0施設
R1年度	62施設	25施設	3施設	0施設

	◎	○	△	×
R2年度	73%	22%	4%	
R1年度	69%	28%	3%	

0% 20% 40% 60% 80% 100%
×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

《評価指標》

(○の占める割合)

① 保護者との信頼関係を築くよう努めるとともに、子育てのこと等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	R2年度 R1年度	100% 98%
② 保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、対応している。	R2年度 R1年度	100% 100%
③ 児童の毎日の生活が学校、実施場所、家庭の間で連続性をもって円滑になるよう、学校と情報交換を行い、連携を図っている。	R2年度 R1年度	92% 92%
④ 児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、運営委員会及び民生委員・児童委員、地域組織（母親クラブ等）、児童に関わる関係機関等との情報交換、情報共有及び相互交流を行い、連携を図っている。	R2年度 R1年度	77% 76%

結果

- ・令和2年度においても令和元年度と同様に、地区の運営委員会、地域の児童福祉関係者等との情報共有等の連携が約2割の施設で達成できていない。

施設コメント（主なもの、参考となるもの）

- ・保護者のお迎えの際、必ず明るい挨拶とともになるべくお子さんの頑張った姿や良かったことをお伝えするように心がけ、保護者との良好な関係作りを心がけている。
- ・迎え時にその日に有ったこと、自分の感じたこと等成るべく保護者に伝えるようにしている。日々の挨拶や会話を交わすことで、保護者との関係を深めるように努力している。
- ・学校との情報交換が重要だが、学校の先生方にその時間が持てないのが現状である。

- ・学校との連絡会はコロナ禍のため中止になったが、日々、主に館長が校長先生教頭先生、担任の先生方と情報を交換し、子どもが育つ支援を考えあっている。学校が協力的でありがたかった。
- ・学校の先生方の都合もあり、打ち合わせや連絡会は定期的には設定できないが、教頭を窓口として鋭意連携を図っている。
- ・毎月発行している「児童センターたより」を運営委員長、学校、子どもプラザ、地域組織に配布している。
- ・地域との情報共有、相互交流がほとんどない。運営委員会との情報交換は年1回の報告会程度で活用度は薄い。
- ・運営委員長（運営委員会）、民生児童委員とは常に連絡をとり、児童や保護者との関わりやプラザ全般の諸活動について報告し示唆をいただきながらプラザの活動を進めている。

